

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079400372		
法人名	有限会社 田川徳星園		
事業所名	グループホーム徳星園		
所在地	福岡県田川郡福智町神崎706番地2 (電話) 0947-22-0030		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 9 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特に注力している項目は、①医療連携②快適な生活環境の構築③地域交流です。①については、医療との連携が最重要命題のひとつとして捉え、緊急時も含め、24時間、365日利用者の状態の変化に対応出来るようにしている。②については、利用者にとって、当ホームが快適な居住空間になっているかを、常に考え、内、外の環境整備に勤めている。③コロナ5類移行後、行事等には積極的に参加するように計画を立てている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな場所に立地する事業所は、敷地内に別法人の軽費老人ホームや障害者通所施設があり、コロナ禍前は、夏祭りや敬老会などの行事を3施設合同で行う等、協力関係が築かれている。1ユニットで運営しているため、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添うことができ、利用者の小さな変化にも気づくため、「利用者の気持ち」が分かるところが事業所の強味である。感染状況により、家族面会の方法や、外出支援等を臨機応変に検討し、実施している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念に基づいたサービス提供が出来ているか、職員個々が振り返り、反省点や目標を毎月の職員会議にて話し合い、ご利用者様主体のサービス提供の在り方を話し合っています。	地域密着型の視点がある事業所独自の理念があり、玄関と事業所内に掲示している。月に1度職員会議で理念を振り返り、「利用者の話を聞く」ことを繰り返し徹底して、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020からコロナの影響で他の事業所や地域との行き来が出来ていませんでしたが、令和4年9月より運営推進会議を対面で再開し、関連施設との交流も徐々に再開しております。	コロナ禍前は、地域のお祭りの山笠の飾りを製作したり、地域の文化祭に作品を出品することがあったが、現在はできていない。事業所を知ってもらうために、地域包括支援センターに事業所便りを持参して置いてもらっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域における交流（町主催の文化祭等）今年は参加出来ませんでした。今後積極的に参加し、利用者様が肌で感じていただける機会を設けていきたいと思っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年3月からコロナの関係で書面にての報告でしたが、2023年9月より通常開催を行っています。対面にて徳星園の現状等を報告、確認をしていただいています。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。利用者や家族、民生委員、町職員、居宅介護支援事業者が参加している。会議で出た要望の中に、面会の希望があり、新型コロナウイルス感染症が5類となったタイミングで家族による面会を再開している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑義等があれば行政機関に確認を行い、課題解消に努めています。スムーズな協力関係の構築に努めています。	町福祉課担当者とは何でも相談できる関係性ができている。具体的な相談内容は、生活保護に関する内容が多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において利用者の状態を職員が共有し拘束の無いケアに取り組んでいます。未経験の職員には解りやすく現場にて指導をしています。	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的開催している。玄関の鍵は日中開放している。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。身体拘束に関する内部研修を開催し、伝達研修を行っている。研修資料を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の社内研修は令和4年6月より行っており、社外研修にも参加をしています。職員会議の中で、研修会で得た知識をいかせるように職員全員が取り組んでおり、虐待がおきないように、防止に取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料をネットで取り寄せたり社外研修にも参加をしています。日常生活での自立支援や、成年後見制度について学んでいます。	権利擁護に関する資料を準備しており、必要に応じて説明をしている。外部研修に職員が参加し、伝達研修を行う予定である。研修報告書を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、項目ごとに丁寧に説明をしています。ご不明な点があれば、ご納得いただけるまで説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍では、電話にてご家族の意向等お聞きしていました。5類以降園の状況や利用者の状況を電話や、家族と対面にて話しをさせていただいています。	利用者からの意見や要望は、食事や外出に関することが多い。食事については、希望に応じて仕出しやファーストフードを頼むこともある。家族から面会の希望があり、事業所ロビーで行うようにする等、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開いています。職員全員が自由に意見を出しあい、業務の見直しや確認を行っています。	コロナ禍に職員から外出支援の提案があり、コスモス見学を行った。代表者は職員が意見を言いやすいようにコミュニケーションを取る機会を設けている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期的に訪れ、個々に職員と面談し職員の業務の内外を問わない意見を汲み取っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別の区別なく、未経験者も採用するなど、採用にあたっては特に制限は設けていません。その人の人柄や働く意欲を重視しています。	幅広い年代の職員が働いており、定年はあるが、継続して就労が可能となっている。男女比も4：6と偏っておらず、採用についても年齢や性別を理由に排除することはない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	令和4年6月以降、ネット等で資料を取り寄せ職員会議の中で話しをし、職員の意識向上に取り組んでいます。	人権について、資料をまとめてファイリングしており、資料を元に内部研修を行っている。以前は寺の住職による法話会が行われていた。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に研修の機会を設けています。研修や資格取得希望者の勤務調整を行い、向上心を損なわないように十分に配慮しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設とは、現在電話にて情報交換を行っています。関連施設にては、5類以降、相互訪問にて情報を交換しています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心して生活が出来るように、事前に十分なお話ができるよう時間を設け、受容、共感の心で接しながら、信頼関係を築けるように努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心、信頼して相談ができるように話しやすい環境づくりに勤め、ご家族と話し合いの場を設けながら、要望の把握に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から本人と家族の意向、要望を聞き取り、その内容を専門職が検討し、真に必要なとされるサービス提供へと繋げています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に寄り添い、思いや心の声を感じとり、常に学ぼうとする姿勢を忘れずに利用者と共に生活する姿勢を心掛けています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、定期的に近況報告や状況等をお知らせしています。5類以降、ご家族が来園されたときは、お話をさせていただき、利用者の支援に役立てています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、馴染みの方や、ご友人の方等とは、電話で、又、来園されたときは交流の場を設けて、支援に努めています。	コロナ禍前は、通っていた理容店を利用したり、お墓参りに行ったりと、馴染みの人や場所との関係継続の支援を行っていた。現在は、電話や手紙による関係性の継続支援が主となっている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者同士の関係を把握し、共有し、常に利用者同士が係り合え、一緒に会話やレク等をとうして支え合えるよう支援に努めています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が死亡による退居ではありませんが、他施設への転出の際には、詳細な情報提供を行っています。退居後の問い合わせについても、丁寧にお答えしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とのコミュニケーションを重視し、利用者の意向、要望を聞き取るように努めています。職員から集めた情報を基にケアプランやサービス内容に反映させています。	入居時点で、利用者や家族から事業所での暮らしに関する思いや希望を聞き取り、介護計画に反映するようにしている。日々の暮らしの中で、生活習慣や感情表現の理解に努めている。利用者とのコミュニケーションを重視し、職員間で共有するように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活履歴等のこれまでの暮らし方や、介護サービス利用の情報を提供していただき、個人記録にファイルする事で、職員間で情報を共有しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や各記録等の記載は、利用者の1日の過ごし方や心身状態等を十分に把握できるように記録しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族からの情報と、担当職員からの情報を反映させて現状にあった介護計画を立てています。	介護計画の見直しとモニタリングは、3ヶ月ごとに実施している。計画策定にあたっては、関係者間で協議し、利用者や家族からの意見や要望を踏まえて作成し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関する情報を介護日報に記録し、担当職員が把握した情報を職員会議の中で、議題として活用しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調管理（病院受診）や、買い物など、職員が柔軟な支援やサービス提供を行っています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園内では、レクとして、花火大会や七夕、花見などを行っています。地域行事等の参加は、今後積極的に行っていきたいと思えます。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる月2回の定期受診や、係りつけ医への受診支援、また、個々の希望や必要に応じての病院受診を支援することで、利用者の健康管理に努めています。	かかりつけ医については、利用者及び家族が自由に選択できる。内科の訪問診療や歯科診療を定期的に行っている。看護師による健康管理や服薬等の助言、アドバイスも得られている。他科受診への支援も含め、医療ニーズへの対応に努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な異変でも看護職員へ連絡を取り指示を仰いでいます。日常の健康管理や医療への対応、また、24時間連絡可能な体制も確保でき、常に連携が計れています		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医やソーシャルワーカーと連携を密にし正確な状態の把握に努めています。入退院時の必要な援助等も家族と連携して行い、入院期間を安心して過ごしていただけるように努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期における対応の説明と、利用者の意思を踏まえた上で家族の意向を確認し、状態が変化した場合も本人、家族の意思を尊重しながら主治医、ホーム間で協議し方針を共有した支援に取り組んでいます。	入居時点で、事業所独自に明文化した「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を基に、利用者や家族に説明している。身体状況の変化に応じて、早い段階から医療関係者や職員、家族間で方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の際、24時間、係りつけ医への連絡など迅速に対応出来る体制を取っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和5年3月、9月には防火、避難訓練を実施しています。関連施設への協力もお願いしております。今後運営推進会議等を通じて、地域への協力をお願いしていきます。	消防署の協力や隣接施設と連携して、防災訓練や避難訓練を定期的実施している。通報訓練や夜間想定避難誘導訓練、消火器の取り扱い訓練等も行っている。運営推進会議で地域住民への参加呼びかけを行っている。非常災害時の食料や飲料水、備品等は事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議では、必ず利用者主体と個々の尊厳を重視したサービス提供を心掛けるように話しており、職員には常に考え行動するようにしています。	個別支援については、マニュアルを整備し、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの保護に関して、職員間での共有に努めている。個人情報の取り扱いについては、明文化した保護方針を利用者や家族に説明している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示できるように、その方のペースに合わせた会話を心掛け、職員が主導する事なく利用者本位のケアを実践しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての面において利用者主体のサービス提供を行っており、予定等も利用者の要望により、柔軟に対応しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出可能になった現在、お化粧品などされ、以前のように自分らしさ見つけられ、楽しそうに笑顔で過ごされています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は隣接施設からの配食です。朝食は徳星園の職員が作るので季節を感じるメニューを心掛けています。テーブル拭きや食器洗いなど、利用者の出来る範囲で手伝ってもらっています。	朝食は事業所で調理している。昼食と夕食は隣接の介護施設からの提供を受けている。行事食や誕生日食等で利用者のリクエストに応えている。近くの道の駅に出かけ、コスモスの見学と併せて夕食を楽しむ支援を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や看護師と連携しながら食事量、水分量の調整を行っています。食事形態は利用者の嚥下状態等に応じたものを提供し、随時変更しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っており、週に一度歯科医による口腔ケアや治療も行っており、歯科医と連携しながら利用者の口腔の状態の把握を行っています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムや習慣を把握し、トイレ誘導等の声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。しかし、認知度の進行に伴い、企図した支援が出来なくなってきた利用者には、声掛けのやり方やタイミングを変えて行っています。	各居室にトイレと洗面台が設置されている。ユニットには共同のトイレが設けられ、利便性及び夜間帯の介護負担の軽減に寄与している。スタッフ会議で、排泄チェック表の検討や改善に向けた意見交換を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、排便チェックにより日々の状況を看護師に報告し、便秘薬等で排便のコントロール等の必要な指示を受けています。予防の為に食物繊維や水分量の確認、室内での運動等を心掛けて行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には週3回の入浴支援を行っています。体調等により入浴不可の場合は、清拭、陰洗により対応しています。	入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴したり、シャワー浴や足浴、清拭等、柔軟な対応を行っている。また、脱衣所の保温対策や皮膚観察、保湿剤の塗布等の入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを尊重し、お部屋やリビングにて過ごして戴いています。又、不眠傾向の方は日光浴やお部屋の照明、空調に配慮しながら安眠できる環境づくりを行っています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋は個人ファイルに整理され、受診記録と共に把握しています。薬の管理や仕分けは看護師がおこなっており、薬の変更や調整等があれば看護師からの指示を職員一同が共有できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や、趣向に応じたレクリエーションを考え、利用者が出来る家事等の提案を行うなど、楽しく充実した毎日が送れる事が出来るよう支援をしています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では外出も出来ませんでしたが、5類以降買い物外出や、レクでのお花見外出など行っています。天気の良い日には園の周りの花壇や菜園などの手入れ等を行っています。	天気や体調を見ながら、日常的に事業所周辺の散歩を行っている。感染状況を見ながら、近郊の道の駅への外出やドライブ等を徐々に再開している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍では、外出も出来ませんでしたが、5類以降、気をつけながら、利用者と職員とで買い物外出を行っています。その際お金の使い道など色々話し合いながら希望にそえるようにしています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をご家族友人に掛けたいと申し出があれば、時間が許す限り、事務所の電話を利用していただいています。手紙も本人の希望があれば郵送にかかる支援を職員が行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良い窓からは季節を感じる事が出来るようになっていて、園の周りには小さな花壇を作り四季折々の草花を植え、小さな菜園も作り居心地よく楽しめる環境作りを行っています。	リビングは日当たりや眺めも良く、開放的な空間となっている。玄関付近の広いスペースにソファを設置し、来訪者との歓談にも利用されている。また、敷地内に東屋があり、屋外での行事に活用されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話を楽しんだり、のんびりとテレビを見られたり、塗り絵をされたりと、利用者がゆっくりと過ごされる場所を提供しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きであり、部屋には本人やご家族の写真を飾ったり思い入れのある馴染みの品を飾ることで居心地よく安心して過ごしていただけるようにしています。	居室は、余裕のあるスペースが確保されている。トイレや洗面台が設置され、畳敷きを基本とした居住環境となっている。家族や事業所の支援のもと、利用者の使い慣れた家具や写真等が持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を無くし、必要な所には手すりを設置して、又、ドアも開閉が楽な引き戸にしています。入口には手作りのネームプレート等で居室の場所が解るように配慮しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		